



2018
KOME. 米. come
Vol.25



茨城県常総市 第14-1号 認定農家
茨城県常総市 農業委員

山野井 喜仁 やまのい よしひと

茨城県女性農業士

山野井 君代 やまのい きみよ

〒303-0031 茨城県常総市水海道山田町 935番地

電話 0297-22-2740 ・ FAX 0297-22-8050

<http://www.ran-yamanoi.com>



カトリアの山野井洋蘭



山野井喜仁 Facebook



山野井洋蘭Facebook



山野井洋蘭ホームページ

 山野井 喜仁

 山野井洋蘭

 山野井 喜仁

連日の猛暑続きの日本列島やっと日中の暑さから解放され、夜風が気持ちよい季節になってきました。

大変ご無沙汰をしております。皆様お変わりなくお過ごしのことと存じます。

全国的に見ても、最高気温の更新が各地で見られ、加えて豪雨や巨大台風、地震と自然災害の多発がたくさん耳に入った年でした。被害に遭われた皆様方にお見舞い申し上げますとともに、1日も早く平穏な生活に戻られることを、心よりお祈り申し上げます。

各地で起こった水害の映像を見ると、3年前の9月11日に我が町を襲ったあの光景が痛烈に思い出されます。災害は起こっている時も大変ですが、その後の方がつらい思いが続きます。

3年経過したこの地ですが、まだまだ苦労は続いております。どうぞ被害に遭われた方々は焦らず、最善の方法をよく考えてから行動してください。このような事態の時には良くない輩がたくさん声を掛けてきます。どうぞ良い話をうのみにせず、行動に移す前にもう一度良く考えて、あとで後悔しないように注意してください。

また、今後も地震をはじめ災害が次々と発生します。どうぞ皆様方も、「私の所は大丈夫」などと過信せず、常日頃から防災意識を高め、万が一の場合の事も家族皆で話し合う事が大切ではないかと思えます。また、我が家では、「非常食」として「お米」を考えております。必ず2週間以上の備蓄をし、減ったら次の分を準備しております。というのも、常温でも保管ができ、常時食べているので賞味期限を気にすることもなく、電気が止まってもカセットコンロや最悪焚火で食べられ、「おにぎり」や「おかゆ」等、食べられる人の状態に合わせられ、少量のお米でも家族分の数日分は賄えるからです。そしてなによりもいつも食べている物の方が、非常時にも喉を通りやすいのです。と、お米の普及のPRです(笑)

私の住む茨城県も、5月から8月末までは全くと言って良いほど雨が降らず、水を好む家庭菜園のサトイモも手のひらほどの葉の大きさにしかならず、収穫は期待できそうにありません。庭の雑草も、この日照りでは芽も出さないのか、普段の年に比べ草取りの手間はかかりませんでした。



子ども達3人が家に戻ってきた山野井家、2人が社会人になった今、それぞれの予定があり相変わらずの人手不足の山野井家です。本業の花のほうも忙しく、人手が確保できる土日に合わせ稲刈りを始めました。例年になく早い8月21日に初日を迎えました。稲刈り当初は晴天に恵まれ、サンダル履きで作業が出来るほど乾ききっていましたが、喜びは束の間で、その後、秋雨前線が活発に動き、連日の雨続きでした。子供たちが手伝ってくれる土日の稲刈りができず、雨の合間を見て少しずつ作業を行い、日数

ばかりかかってしまい、全く予定が組めない日々でした。

収量も猛暑の影響で、この地域では例年の1割が近く減っております。粒も小さく、小米と呼ばれる大きく育たなかった米粒が、例年とは比べられないほど多くありました。(小米につきましては食味が落ちるので、ライスグレーダーという連続フルイで選別して落とします。)

農家にとってもこの1割近い収量の減少は、収入に大きな痛手になってしまいます。

さて、先の東日本大震災による放射能数値ですが、行政機関が震災後の常総市地区内外に於いて、毎年サンプル採取および検査を行っており、結果、未検出との報告が、震災当初より常総市および当地区のJAより通達され続けていました。しかし、昨年より何の連絡も来ません。毎年異常無しなので、検査をやめたのか、何の報告もありませんので、お伝え出来ません。申し訳ありません。

前号から早くも1年、通算 25 号となったこのパンフレット、1号から読んでくださってる皆様はもう 25 年間もお付き合いくださっていることになります。先ほど現存している 1999 年号を改めて読み返しましたが、当初は A4 の用紙が 2 枚だったにもかかわらず、今とそれほど内容が変わっていないのには驚きました（笑）

初めて今年からこのお付き合いが始まった方もいらっしゃると思います。1年に1回しか書かないこのパンフレットですが、もうこのパンフレットを書く時期が来たのかと思うと、1年の月日が流れるのが非常に早く感じます。またこうして新たな気持ちで稲作に打ち込め、皆様方ともまたお付き合いできます事を感謝いたします。



ところで今年の米の出来具合は・・・ いつも通りの反省続きでしたが、検査もすべて1等米になりました。刈り取り時に感じた、粒が小さいお米も、乾燥後の玄米をライスグレーダー（選別機）にかけ、粒の大きさを1.85mm以上の大粒の物だけを選別しました。

例年より中粒のお米が大変多く、かなりの量の玄米がはじかれてしまいました。加えて暑さによる減収でダブルパンチです。

流通している大半のお米は、1.80mm以下の中粒を含めたサイズを精米していることが多いのですが、食味を追及すると大粒の方が、実がしっかりと入り美味しいのです。もちろん皆様の所へは、この1.85mm以上の大粒の玄米だけを精米してお届けしています。

味については、もちろん例年になくおいしい出来だと確信しています。自画自賛かもしれませんが、ぜひご感想をお聞かせ下さい。

1年に1回しか出さないこの報告書、毎年刈り取りをしながらこの文章を考えています。生産者と消費者が少しでも近い存在になれば、農家の気持ちの伴った農産物が届けられるのではないかなと思ひ、始めたこの米の産直販売。御陰様であつという間に25年が過ぎました。

皆様方の顔が浮かぶと、元気で頑張っている山野井家の様子をお知らせしたくて、今年も書きはじめた次第です。

毎年毎年、異常気象の文面で始まるこの手紙も、回を重ねる毎に、だんだん我が家族の近況報告書みたいになってきてしまいましたね。お米の事だけだと毎年ほとんど同じになってしまうので、まあ気にせず世の中にはこんな家族もいるのだなぐらいに、軽く読んでください。(笑)

今年も家族一丸で一生懸命農業に励みました。土作りから収穫までいろいろな出来事があり、その度に一喜一憂しながら米作りを楽しみました。今時の農業事情、普通に米を作り、普通に販売してはとっくに化学肥料・農薬まみれのお米作りになってしまっています。

農家事情を考慮しない価格設定のため、すでにコスト割れしている稲作経営の中で、安く安全で安心なお米を作れと言うのが間違っているような気がします。利益を得るために収量を多くするだけの栽培方法・高齢化する農家の労力を減らすだけの栽培方法・他人任せの販売方法・・・個々の農家の考えがあるのでしょうか、間違っているとは言いませんが、少し栽培方法を改善し利益を出せば、さらに資材費や労力費にかけられ、なお一層、安心安全という付加価値が付けられるお米を作れるのではないかと思います。

いつものように。 普段どおりに。 この言葉の難しさが今年も重く感じた年でした。

さて、昨年の刈り取り後の土作りから始まり、今年の稲刈りまで、手を抜かず励んだ1年間家族の喜怒哀楽の全てが、お届けしたお米一粒一粒に詰まっているはずです。その集大成の「山野井家のお米」を、どうぞ皆様心ゆくまで御賞味下さい。

2018年9月25日 記

皆様方に御連絡

ご存知の通り、ヤマト運輸などの宅配業者さんが昨年値上げをいたしました。

わが農場も、洋蘭部門の方で、かなりの数の荷物を輸送して頂いておりましたので、いろいろな面でかなり融通して頂いておりました。

しかし、今回の各社からの通達に、輸送価格の見直しに加え、規格の見直しも重要課題となっており、わが農場もその対象にあがってしまいました。

誠に申し訳ございませんが、内容量+箱で重さが規定値以下でないとは絶対受け付けませんとキツク言われてしまいました。

その為に、袋の中身がスカスカになり皆様方には、昨年よりずいぶん量が減ったなど感じさせてしまうと思います。同じ運賃ならば少しでも多く送りたいと、今まで重量オーバーを個数でカバーしてもらっておりましたが、それもできなくなってしまい、規格以内の中身になってしまいました。申し訳ございません。

しかしながら、その分「愛情」は必要以上に同梱しましたので、御了承ください。(^^)

よい事は毎年続け、結果が悪いときはすぐやめます。
 しかも性格からか一部だけの試験にとどまらず、いきなり全面積が試験対象です。
 「毎日が実験室」のような試行錯誤を繰り返し、努力と言うより楽しんでいきます。
 いつも思ったようには行きませんが、たまには「ばっちり！！」的を射る時も！！
 我が家の稲作、私が後継者になり経営の主導権を握ってからと言うもの、ひとつ確信できる事があります。それは一言「とにかく他人は冷ややかに見ていて、だれも絶対に真似はしません。」
 やっぱり、これって私が間違っているのでしょうか。きっと・・・・・・(笑)

機械整備編 昨年秋（稲刈り後すぐ）

平成 29 年 9 月



稲刈りが終わると真っ先に、コンバイン（稲刈り機）の大掃除をします。

本当は水を掛けて洗うものではないのですが、細かいところまで入り込んでいる泥やホコリ、稲わらを取り除くには手取り早く、開けられるところは全部開けて、隅々まで水洗いします。

少しでも米粒などが残っていると、保管している間に、ネズミたちが入り込み、イタズラをされ来年まで使おうという時にそのまま修理へ等といった、不具合を招かないと

も言えません。

今時の機械は、掃除がしやすいように工具無しで開けられるところが多くなり、非常に助かります。

洗車した後の機械は1週間ほどかけて、風通しの良い所で完全に乾かします。

そのあと、格納する前に「オイル交換・ベルト類の点検、調整、交換・油脂類の充填」などを徹底的に整備し、最後にはサビやネズミの侵入の予防、金属部分の保護の為に、全体にオイルを吹き付け、シートでラッピングされ、倉庫内で来年までの長い眠りに入ります。

農家さんによっては、このような整備・点検をメーカーやJAに委託される方も多くいらっしゃいます。特に我が近所では当たり前の光景です。整備するメーカーの担当者のお話では、何事もない場合の整備・点検1回にだいたい5～50万円の費用が掛かるとのこと、もちろん修理箇所が発生した場合は、その代金は別との話です。それでは全然農家の儲けは無くなってしまいますし、もし10年間毎年整備を委託し途中で何か部品を交換した場合、500万円近くの費用が掛かってしまう計算になります。

それならば、何もせずある程度の整備を自分で行き、壊れたら新車と交換したほうがずっと良いはずで

す。私の機械の場合は、750 万円で購入し、18 年目の作業を終えました。現時点でまだこれといった不都合は出ておらず、今までにかかった消耗品や修理費もトータルで 50 万円ほどです。全部整備を委託していたら、新車で買い替える以上のお金がかかってしまう事は、十分理解できます。

我が家の場合は掃除に 2 時間、点検整備に半日、格納前の保護に 2 時間と延べ 1 日で終わる作業です。利益を出すためにも、やはり農家は損益を考え、そして何より手先が器用でないといけないようです。

土作り編 刈り取り直後の秋から春 平成 29 年 9 月



これから来年の田植えまでの期間、土作りに励みます。刈り取り跡に通常ですと石灰窒素を散布し、稲わらと共に地中に鋤き込みます。石灰窒素は微生物の活動を活発にし、稲わらを早く分解する手助けをします。しかし今年も昨年同様、石灰窒素を全く散布せず、原塩を 300 坪当たり 50 kg 散布しています。塩に含まれるミネラル分が土壌内の微生物を活性化するようで、稲わらの分解が早いのです。

田んぼに塩??と思われるかもしれませんが、塩ではなく精製される前の原塩です。原塩にはナトリウムだけでなく、不純物がたくさん入っています。この不純物が欲しいのです。

海水を天日で乾かした物なのですが、さすが国内産は高級品で田んぼに散布など高価すぎて到底できません。オーストラリア産が割と格安で粒も散布しやすい大きさなので取り寄せています。(写真の親指から小豆粒くらいの結晶です。) 25kg で 1500 円程度ですから石灰窒素より安価で済みます。

10 月に 1 回 25kg そして来年 4 月の田植え前の水を張った田を均等にならす、代かきの時に 25kg 散布します。例年使用している鶏糞は牛糞に替え散布しました。10 月に 300 坪あたり 6 トンの牛糞を全面散布しました。田んぼも化学肥料だけでは地力がさがります、鶏糞に比べ牛糞の大部分は稲わらなどの有機物です。やはり有機物を土壌に還元してあげると、土の力が高まります。

塩というと「青菜に塩」が真っ先に思い浮かび、植物が元気をなくすと想像しますが、原塩には海水のミネラル分が豊富に残っていて、土壌中の微生物が活発に活動するようです。数年前より石灰窒素は散布せず「原塩」だけに頼って見ましたが、あまり差は残念ながら見られませんでした。話の発端は、海辺の地区でレタスやキャベツに海水を薄めた物を散布すると良い物が出来る。と言うことを聞いたからです。実際海水を汲みに行くにも遠く、汲み置くと海水も腐敗しますので、手軽な原塩にしたわけです。かなり前から家庭菜園にも撒いていました。それを見た仲間も「枯れちまうぞ。」と一言。また馬鹿なことやっているな! と思っていたようですが、実際は根が元気に伸び、葉の厚みが増したようです。やりすぎては枯れそうですが、「適度に良い塩梅に」、が大切みたいです。米にも使えると思い 15 年程前から思い切って散布しています。ちなみにこの「原塩」は食卓で使うと複雑な塩味で大変おいしく「普通の塩」などはただ塩辛いだけに感じてしまいます。

ちなみに海が近い方は、塩よりも「海水」の方が効果が高いようです。我が家の本業のカトレアには、水掛け時に「海水」を薄めて肥料と一緒に掛けています。

新鮮な方が良いと思い、毎月トレーラーに1トンタンクを積んでけん引し、片道80km先の太平洋の鹿島港まで海水を汲みに行っています。子供たちが忙しくほとんど家にいない今、一緒に行ってくれる人は、その日手の空いている人に代わりましたが、漁協にも了承を得て、魚市場の海水ポンプを使わせて頂けるようになりました。以前のように港内の海水ではなく、沖合から汲み上げる新鮮な海水は、なおさら効果が高いような気がします。



昼間は魚市場が稼働しているので迷惑と思い夜に行きますが、ホースも常備されていて、何よりも海岸に近づかずに安全に海水が汲めるようになった事は、私自身よりも、家で帰りを待つ家族が一番喜んでます。海までは、行きに2時間、帰りは1000リットルで1トンの重さになりますので重いので2時間半のドライブです。

この海水を花用に使うのタンクに入れた残りが毎回500ℓほど余ります。そのまま下水に流してはもったいないので、500坪ほどの田んぼに流し込んでいます。以前は100坪の田んぼで試験してみましたが、少し規模拡大しました。1年間で500ℓが12回・・・約6000ℓ合計6トンの海水です。もちろん海水以外の水も掛けていますが、そうとうの量の海水の割合だと思います。今までの経験から増収は間違いないので全面積に海水を入れてもいいのですが、何せ海が遠いもので、汲みに行くコスト面を考えると・・・却下ですね(笑)

解決策が出来た時は、絶対にやりたいことの一つです。

海水のお陰か否か、海水を入れた田んぼにはカブトガニの小さいような姿の「ホウネンエビ」が大量発生しています。この近辺ではしばらく見かけたことさえありませんでしたが、この生き物が発生する田んぼは豊作になるといふ言い伝えもあります。



加えて今年は近所の酪農家さんから「牛糞」を大量に頂き、全面散布しました。ここ数年、地力が落ちてきたなと感じたため、一番の特効薬と思い散布しました。通常は300坪あたり2トンと言われていますが、たぶん6トンくらい入ったと思います。無料で貰ったのと、子供たちが運んでくれたので、つつい欲張ってしまいました。3台の軽トラダンプで1日かけてすべての田んぼに運び込みました。

ちょっと量が多いとは思いましたが、あわよくば次年度は化学肥料無しで育てようとの思いもありましたので、思い切って入れてみました。



田植え準備編

平成 30 年 4 月 12 日 (木) 53 才の誕生日です！！



畦づくりを開始しました。畦とは田んぼの水が漏れないように、隣の田んぼとの境に作る土の土手です。一部コンクリートのところもありますが、我が家の田んぼは、ほとんど土のままです。昔と違い手作業ではなくトラクターに作業機を付け替えて行います。100メートル30分ほど掛かり、動いているかいないか分からないほどゆっくりの作業なので、睡魔との闘いです。ただ、ウトウト・・・としていると、確実に畦が曲がり、稲刈りまでの間そこを見る度、苦笑いしなければなりません。この作業は手作業の時に比べてかなり楽になりました。水漏れもなく、ザリガニやモグラも嫌がって穴を開けなくなるほど頑丈に完成します。作業委託分も含めて5日ほどかけて作業が終わります。

畦が完成した田んぼから順に、水を入れ始めます。田んぼに付いたバルブをひねると、直径15センチ



のパイプから勢いよく水が出ます。我が家の庭先、地下250メートル、毎分430リットル汲み上げられる井戸水は、我が家のカトレアを育てる水であり、何より我が家が毎日使う飲料水でもあります。乾いた田んぼは見る見るうちに水面に変わり、その夜から辺りは大変にぎやかになります。

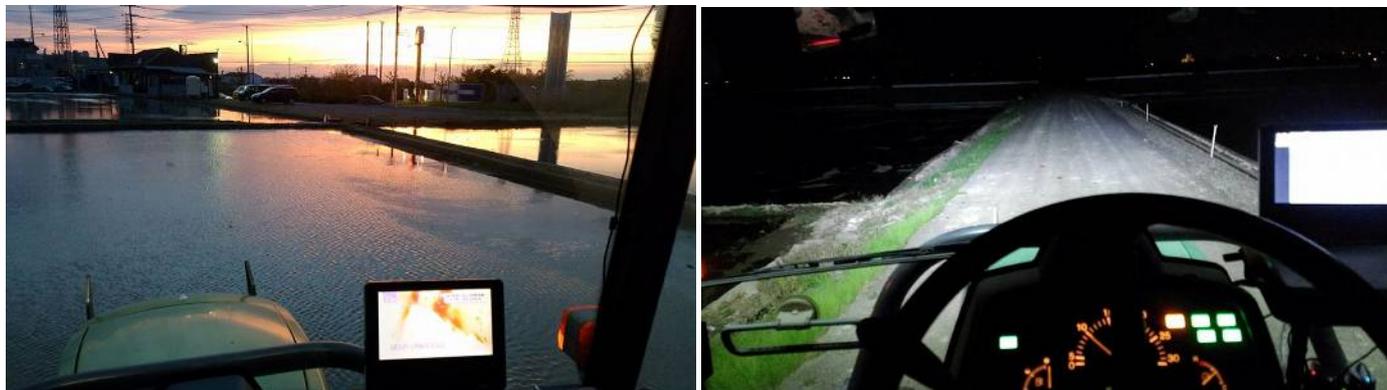
待ちわびていたカエル達がどこからともなく集まりだし、夜な夜な大合唱を始めるのです。この声を聞くと、夜風が気持ちよい季節になります。



平成 30 年 4 月 15 日 (日) 晴れ

田植え前の最後の作業、代かきを行いました。1回目を荒代(あらしろ)、2回目を本代(ほんじろ)と呼び、荒代は田んぼに水を張ってすぐに、本代は田んぼの性質にもよりますが、田植えの3日から4日前に行います。トラクターの後ろの作業機を幅3.4メートルの大きいものに変え、水を張った田んぼの土

を細かくしながら均等にならしていきます。この地区は砂壤土が広がっていますので、水の浸透が速く美味しいお米が収穫できる土地としては有名なのですが、丁寧に作業を行わないと、漏水が多くなったり高低差が出来たりと大変です。高低差が出来ると、田植え直後の小さな苗が水面下に潜ってしまったり、逆に出てしまって干上がってしまったりと、枯れてしまう原因となります。昨年の様子から冬場のうちにある程度はブルドーザーで均等化してはおくのですが、水を張ると高低差がよくわかるので、再度均等になるよう土を動かします。



田んぼ全体を2センチ以内の高低差に仕上げるのは至難の業ですが、今の機械にはセンサーが付いていて、ある程度は機械任せとなり助かります。ただ風のある日は水が風下に移動し、仕上げたつもりでも風が治まると5センチ以上の高低差が出来てしまったことなんてざらです。荒代作業を終え、2～3日たって土が落ち着いた頃、もう一度最後の仕上げの本代に入ります。とにかく平らに平らに・・・が目標です。本代を終えて3日目ぐらいが丁度よい田植えが出来る状態になります。逆に言えば田植え予定日の3日前に本代をやらなければなりません。早くても遅くても土の硬さが田植えに向かなくなります。毎年の事ながら、今年も夜中までやってしまいました。今年こそは早めに終わらせて・・・と思いつつも終わるのは遅い時間・・・毎年毎年学習能力がありません。

田植え編

平成30年5月3日（木）晴れ





快晴の中、恒例の田植えです。秋口に牛糞をたくさん入れたので今年は完全無化学肥料です。

原則として5月3日に田植えをすると決めている我が家。

父の命日が近く、来客が多い我が家のこと、総出の作業はなかなか難しいのですが、今年も兄弟、子供、甥と5名にて一気に作業が出来ました。

地域では離農する農家も増え、今年も新たに600坪の作業受託が増えました。

早朝5時から、夕方までに全ての田んぼに苗が植えられました。毎年家族イベントとして行っていますが、それぞれの分担があり、苗を運ぶ人、補給する人、枕地にトンボを掛ける人と皆それぞれ手慣れた手つきでこなします。家族の絆・結束力の強さを、あらためて実感できた出来た1日でした。

あとは、順調に育つことを祈るだけです。

あぜ道編

平成30年の毎日

私の毎朝最初の仕事は田んぼの見回りです。朝ご飯前に愛車の「スーパーカブ」にまたがり、すべての田んぼを一回りしてきます。通称「野まわり」とこの辺では言っていますが、雨の日以外、毎朝水の状態を見に行きます。以前は軽トラックで回っていましたが、燃料代高騰の今は原付バイクそれもホンダのカブが主力です。小回りも利き大変重宝しています。



田んぼでは人と会うと「井戸端会議」が始まります。この地区のほとんどの農家の方は、優雅な隠居生活を楽しんでいらっしゃる方々ばかりですので、まずつかまると、時間を全く気にすることなく情報交換??が始まります。話の内容は毎年まったく同じなのですが、行き着くところみな口をそろえて

「米作り1年生だから今年もどうなるかな」そんな言葉で終わります。先輩方も毎年試行錯誤しているみたいです。失敗は成功の元……でも、まだまだ誰も成功はして

いないみたいです。米作り、奥はかなり深いようです。

合わせて今年は米価格の暴落で収穫した米がいくらになるのか、答えの出ない話を毎日毎日繰り返し議題にあがります。身近な問題であり、わが身に降りかかっている問題となると、なおさら白熱した討論が始まります。毎日どこかで誰かに捕まると、朝食前に帰れないのが難点です。

田んぼを取り巻く環境も年々変わってきました。毎年このパンフを作るため、農作業の度、デジタルカメラを持参しています。その記録を見るたび、家が増えたり電柱が立ったり、隣の田んぼが作らなくなったりと、様子がどんどん変わっていきます。深夜まで明るい道路を照らす街灯や、お店の照明なども、日が短くなると実を結ぶお米に悪影響を及ぼしています。田んぼの方にあまり明かりが入らないようお店に協力をお願いしていますが、なかなか改善できないのも現実です。

私自身もまわりの住民の方々に迷惑を掛けないように配慮する必要性も増えてきました。大型機械等の音の出る作業機を使うときの時間帯や風向きなど特に気を遣います。生き残るため、この職業を続けていくため、隣接地との環境問題が不可欠な要素となりつつあります。